

令和 6 年度 優秀卒業論文賞総評

優秀卒業論文賞選考委員会 委員長 小野正芳

1. 審査の方針

推薦された卒業論文を形式と内容の両面から、優秀卒業論文として表彰するに値するかどうかについて、審査委員会による慎重な審査を行いました。

形式面について、「卒業論文作成の手引き」に沿って作成されているか、なかでも引用、図表、脚注、参考文献などを適切に記載しているかどうか、十分な校正がなされているかといった点が評価のポイントとなっています。

内容面について、学術的な形式を踏まえているか、研究方法や論文の論理構成は適切か、得られた結論が妥当なものなのかといった点が評価のポイントとなっています。

審査の結果、3 編の卒業論文が最優秀卒業論文に、12 編の卒業論文が優秀卒業論文に選定されました。受賞者のみなさんとその成果を讃えたいと思います。

2. 全体の講評

受賞論文は消費者行動に関する問題、金融に関する問題、経営に関する問題、法律に関する問題、社会に関する問題などを取り扱っており、実に多様な領域にわたっています。これは、日本大学商学部のゼミナールにおける、学生の皆さんの研究の多様さ、その水準の高さを示しているとも思います。

また、その研究手法も、実証分析、フィールド・ワーク、歴史的分析、社会的分析など多様であって、人文・社会科学という学問の懐の深さを改めて認識せざるを得ませんでした。このような論文の多様性は、学生さんの皆さんが普段から様々な問題に関心をもって、学問を追及しているからこそ達成されるものですが、そのような方向へ導く先生方の研究能力の多様性とも関係しており、商学部の先生方の研究の幅と深さをも示していると思います。

人工知能の発達により、コンピュータにお願いすればそれなりの文書を作成してくれるこの時代に、自ら課題を見つけ、その問いの答えを探し、長編の文書にまとめるという 1 年間にわたる旅をした学生の皆さんには、多くの力がつき、多くのことを経験したと思います。問題を発見する能力、その問題が問題たりうることを説明する能力、問題を解くために必要な材料等を収集する能力、その材料が問題を解くための必要であることを証明する能力、集めた材料を再構成し答えを導く能力、自らの考えを他人にうまく説明する経験などです。それぞれの能力・経験は、今後の社会生活のどこかで必ず皆さんたちを助けてくれます。そして、社会生活の中で使うたびにその能力・経験値はアップデートされ、皆さん方のより強力な道具となってくれるでしょう。

これら受賞論文について、学部ホームページに論文要旨と講評が、図書館に製本された論文が長く保管されます。一人でも多い後輩の皆さんが、これら受賞論文を閲覧し、知的好奇心を刺激され、卒業論文の作成に挑戦し、先輩たちに続いてもらいたいと思います。そして、日本大学商学部のゼミナールの伝統が受け継いでいってほしいと思います。